

ゴミ捨て場に利用された自然流路 SR103

自然流路 SR103 のうち 27・28-G・H グリッド周辺（廃棄域 2）では、流路の埋め土中から大量の遺物が出土しました。

ゴミ捨て場として利用されたとみられ、流路が人為的に埋められたことが明らかになりました。

廃棄の単位を地層ごとに把握することができ、7 層に区別して遺物を取り上げました。その結果、各層で土器の年代が異

なり、下の地層からより古い遺物、上の地層からより新しい遺物が出土することがわかれました。下から三十稻場式土器・南三十稻場式土器・加曾利 B 式土器が層位

的に出土しており、当地域の土器編年を考えるうえで重要な資料になるものと期待

されます。層位的に出土した土器の年代から、SR103 は縄文時代後期前葉を中心と

する期間に埋められ、南三十稻場式古段階ころに埋まりきったとみられます。

SR103 が埋まりきった後には、これを横断するように建物が建てられています。

SR103 は、集落のはじまりと、その展開を知る上で重要な指標になることがわか

りました。

時 期	土器型式（段階）	年 代	上野遺跡
中期 末葉			
後期 前葉	三十稻場式土器（古）	4,420 年前	↑
	三十稻場式土器（新）		
	南三十稻場式土器（古）		
	南三十稻場式土器（新）	3,980 年前	↓
中葉	加曾利 B 式段階	3,820 年前	

上野遺跡の時期と年代

※年代は小林謙一 2008 「縄文土器の年代（東日本）」
『総覧縄文土器』より

各層から出土した遺物

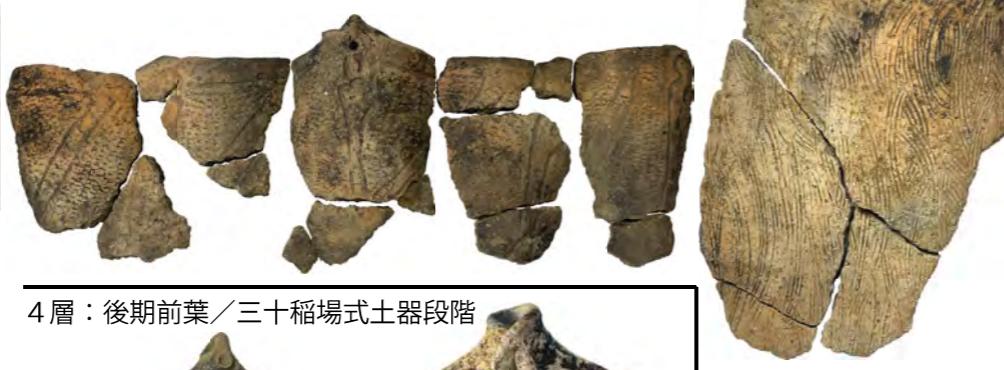
1層：後期中葉／加曾利 B 式土器段階



2層：後期前葉／南三十稻場式土器段階



3層：後期前葉／三十稻場式～南三十稻場式土器段階



4層：後期前葉／三十稻場式土器段階



10 cm (1:5)

5層：後期前葉／三十稻場式土器段階



6層：後期初頭～後期前葉

かみの 上野遺跡 現地説明会資料



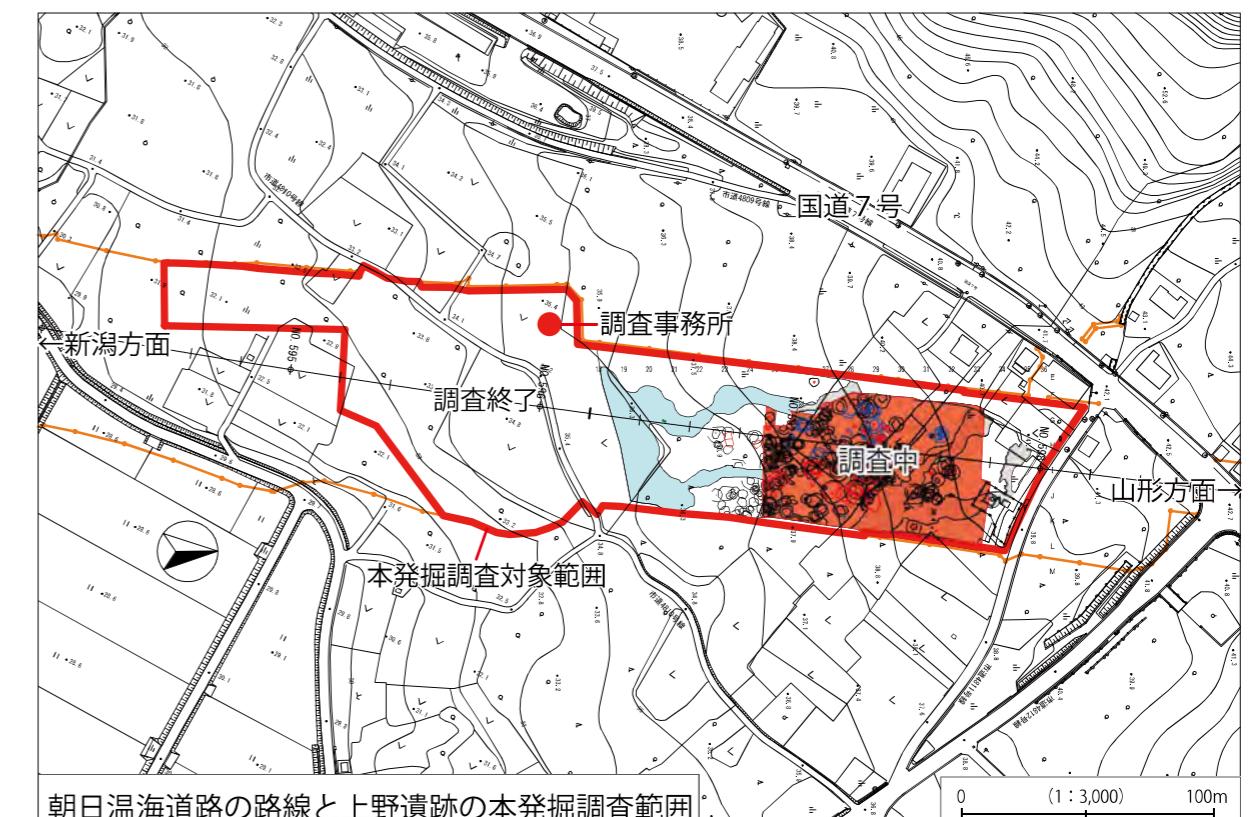
令和 6 年 7 月 20 日
国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

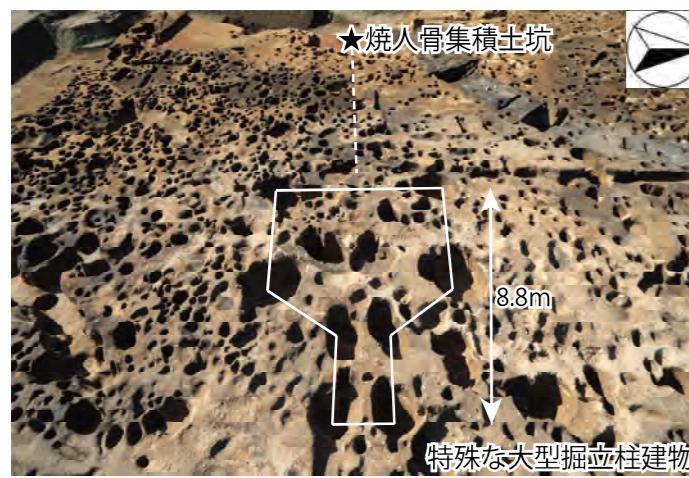
遺跡の概要

日本海沿岸東北自動車道の一部になる国道 7 号朝日温海道路事業に伴う上野遺跡の発掘調査は、平成 29 (2017) 年度から継続的に実施しています。8 年目となる今年度は、延面積で 5,984 m² を対象に調査しています。

遺跡は、高根川右岸の扇状地に立地する、縄文時代後期前葉（約 4,000 年前）の大集落の跡です。これまでの調査で検出した遺構は 12,000 基以上、出土した遺物は 4,700 箱以上と膨大な数量となっており、この時期としては県内最大級の集落であったと考えられます。

現在、建物が集中的に建てられた「居住域」を調査しています。多様なかたちの建物（平地建物・掘立柱建物・堅穴建物・敷石建物）が 200 棟以上見つかっており、その周囲に廃棄域が設けられたことがわかれました。集落全体の様子がみえてきたことは、当時の集落のあり方を知る上で大きな成果といえます。また、「焼人骨集積土坑」の発見は、当時の葬制を知る上で重要な遺構と考えられ、全国的に注目されています。

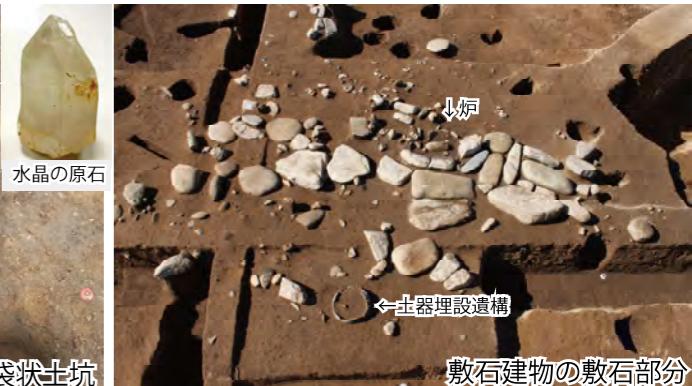




- 第1段階の建物
- 第2段階の建物
- 第3段階の建物
- 竪穴建物
- 炉
- ★ 焼人骨出土遺構
- 縄文時代の流路
- 遺跡廃絶後の流路



少なくとも7体の焼人骨が埋葬されました。四肢長骨(腕や脚の長い骨)を意図的に配置しながら埋葬したと考えられます。左の写真は、埋葬範囲の外周を四肢長骨で囲っている様子がわかります。また、最下層では頭蓋骨が集中的に出土しています。



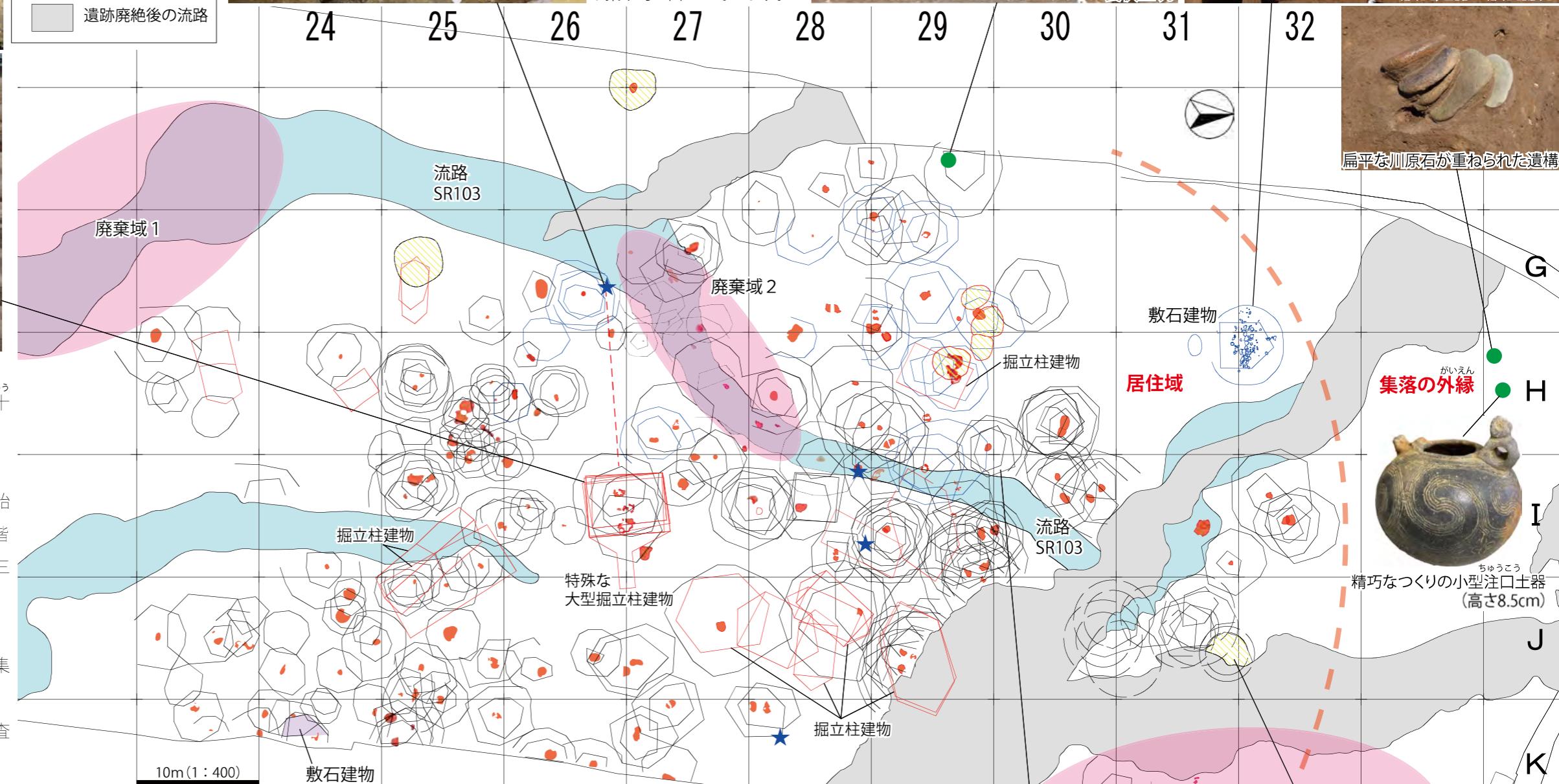
集落のうつり変わり

上野遺跡の縄文集落は、後期前葉（三十稻場式～南三十稻場式土器段階）に本格的に展開します。第1段階には、居住域を横断する自然流路 SR103 の南東側に掘立柱建物が建てられます。このころから廃棄域 2 でのゴミ捨てが始まり、SR103 が徐々に埋め立てられてきます。第2段階には、平地建物が広範囲に建てられ、第2段階後半（南三十稻場式土器古段階ころ）に R103 の埋没が完了します。第2段階後半～第3段階には、埋没した SR103 をまたぐように建物が建てられ、南三十稻場式土器新段階ころに集落が終わりをむかえます。その後、後期中葉（加曾利B式土器段階）の生活の痕跡がわずかに残されますが、調査範囲内で、この段階の集落は見つかっていません。

なお、各段階の建物の配置は「弧」が連続するように見えますが、建物間の関係について検討しているところです。

特殊な大型掘立柱建物

集落の中央では、第1段階に位置づけられる特殊な大型掘立柱建物が見つかりました。西側に4基の柱穴が長方形に配置され、その東側の中軸上に4基の柱穴が細長く配置されています。全体の形状は「凸」字状で、建物全体の大きさは長軸 8.8m、短軸 6.5mほどです。極めて珍しい形の建物であるとともに、同じ場所で6回建て替えられたことが明らかになっており、集落における重要な施設であったと考えられます。西側の4基の柱穴は、直径 2m、深さ 1.5mほどと大きく深いことが特徴です。柱の痕跡から推定される柱の太さは 30cm 前後であり、6回の建て替えにより柱穴が拡張したと考えられます。また、建物軸は東西南北に一致しており、方位を意識して建てられています。その西側延長上には「焼人骨集積土坑」があり、相互の関係を検討しているところです。



遺跡の地層

上野遺跡における縄文時代後期の地層は、IIIa層・IIIb層・IIIc層・IIId層に区分できます。このうち集落の形成に最も関係するのは、後期前葉の遺物を大量に含むIIIb層です。遺構検出面は、上からIIIb層上面（第3段階）、IIIb層中（第2段階）、IIIb層下面（第3段階）にわけることができます。第1段階では主に掘立柱建物、第2・3段階では主に平地建物を検出しています。

